

第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

令和5年7月6日（木）9時00分～

委員長 皆様、おはようございます。本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をご覧ください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開であるとともに、審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音をさせていただきます。

それでは、ただいまより第2回令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

本日の次第をご覧ください。今回、ご審議いただく内容は、議案「令和6年度使用小学校用教科用図書について」です。

まず初めに、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき、会議録署名委員を指名いたします。

委員長の私のほかに、今回も繁里委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

繁里委員 よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。では、繁里委員、よろしくお願いいたします。

続いて、本日の資料について事務局に説明を求めます。事務局、お願いいたします。

事務局 それでは、お手元の資料についてご説明させていただきます。議題に係る資料について説明いたします。

第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました4点の資料についてご説明いたします。

1点目は、本審議委員会の下に置かれました調査員によって作成されました「小学校用（令和6・7・8・9年度用）『調査資料』」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し、十分な経験と知識を有する者のうちから、本市教育委員会が調査員として57名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、調査資料の最終ページに記載しております。

2点目は、県より報告されました「小学校、義務教育学校の前期課程 教科用図書調査研究の結果（令和6・7・8・9年度使用）」です。これは、県の選定審議会のもとに置かれた専門調査委員会が調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして、県教育委員会から本市教育委員会へと送付されたものでございます。

3点目は、「令和6年度使用小学校用教科用図書調査書まとめ」です。これは、各小学校長が自校の教員に、県の調査研究の観点等に沿って調査研究させた「令和6年度使用小学校用教科用図書調査書」をもとに、事務局でまとめたものです。各学校が調査の各観点に沿って、あてはまると思われる発行者に丸をつけたものを集計し、一覧にしたものです。各教科、種目別の観点及び本校の児童の実態や地域等の特性との関連の観点について、その教科書が適切である理由として各学校が記述した内容を発行者ごとにまとめ、一覧にしたものです。

4点目は、「令和6年度使用教科用図書意見書一覧表」です。これは、市民及び保護者向けに各小学校及び藤沢市役所分庁舎2階会議室において、教科書見本展示会を開催した際にいただいた意見、感想を事務局でまとめたものでございます。

そのほか、サイドテーブルの資料についてです。小・中・特別支援学校の学習指導要領、教科書発行者が文部科学省から指示され作成した教科書編修趣意書、令和6年度使用小学校用教科用図書見本本及び特別支援教育関係教科用図書見本本を用意しております。

なお、令和6年度使用小学校用教科用図書調査書と令和6年度使用教科用図書意見書等についてもサイドテーブルにご用意しております。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

ただいまの資料などの説明について何かご質問はございますか。

各委員 なし。

委員長 では、質問がないようですので、これから議事に入ります。

議題「令和6年度使用小学校用教科用図書について」審議してまいります。本年度は、令和6年度から令和9年度に使用する小学校の教科用図書の採択が行われることになっています。

また、審議委員会が審議を行うにあたり、学校教育に関して十分な知識と経験を有する調査員を置き、調査研究を行わせました。本日までに審議委員の皆さんには調査員が作成した調査資料に目を通し、調査研究を進めていただいているところですが、その調査資料の内容を基に各小学校の調査書のまとめ、県より出された教科用図書調査研究の結果等を使って審議を進めたいと思います。

続きまして、審議の進行について、何かご意見がございますでしょうか。

澤野委員　今回の審議の進め方について、各種目について、特に市の調査資料の大きなまとめである3観点を意識して進めてみてはいかがでしょうか。

日置委員　私も澤野委員の考え方に賛成です。

委員長　ありがとうございます。ただいま市の調査資料の3つの観点をもとにしてというご意見がありました。市の調査資料の3つの観点といたしましては、1つ目の観点が「編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容・構成、教科・種目別の観点」です。2つ目の観点が「分量・装丁・表記等」です。最後に、3つ目の観点は、「本市の児童の実態や地域等の特性との関連」となります。これら3つの観点をもとに、種目ごとに進めてはどうかというご意見だったと思います。皆様いかがでしょうか。

各委員　いいと思います。

委員長　それでは、これから種目ごとに3つの観点を基に、各委員からご意見をいただいて進めていきたいと思っております。では、ご意見をお願いします。

まず、国語についてご意見をお願いします。

和田委員　まず、国語ですが、3者、教科書が出ています。3者とも主体的・対話的で深い学びの実現に向け、子どもたちが見通しをもって学びを進められるよう工夫されています。

特に、光村図書出版では、市の調査資料にもありましたが、各単元の「見通しをもとう」において学習課程が示され、学習の見通しをもち、問いや対話が生まれてくるようになっています。また、巻頭には、新しく学ぶ内容と既習の内容が結びつけて示されていることで、無理なく新しい学びに向き合える工夫

がなされていると感じました。

続いて、教育出版は、巻末にある「付録」の「情報のまとめ」、「大事な言い方」などが充実しており、児童が学習の振り返りや課題解決するのに役立つ工夫がなされていると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

村田委員 私は、語彙の豊かさを培うという観点から見たところをお話しいたします。

県の調査結果にもありますが、3者とも、教科書を通じて子どもたちの言葉に関する学びを深めながら語彙を獲得していくため、それぞれの方針で工夫がされていると感じました。

東京書籍は、「言葉相談室」というページがあり、具体的に設定された生活場面から語彙を増やせるように図られています。

教育出版も、趣意書に「日常生活に生きて働く言葉を養う」とあり、そのように単元設定が工夫されています。加えて、「言葉の文化」のページでは、古くから日本人の生活に根差している伝えていきたい言葉が集められ、語彙の幅を広げています。

光村図書出版には、巻末に「言葉のたから箱」というページがあり、これはとてもよくできていると思いました。「言葉のたから箱」は、文学教材を読み深めたり、説明文をしっかりと読み取る学習をしたりする中で身につけた語彙と非常によくリンクしていて、繰り返し授業の中での活用が期待できます。低・中・高の系統性も意識されています。また、伝統的な言語文化に関わる語彙でいうと、「季節の言葉」というページがあり、古来、日本人が大事にしてきた季節感のある言葉が並んでいます。日本語の持つ美しい響きや心地よいリズムを体感する活動につながり、子どもたちの言葉に対するセンスが磨かれ、語彙が豊かになっていくことが期待できます。

少し視点が変わるんですけども、分量、装丁ということを

考えますと、教育出版は全学年、上下の分冊になっていますので、子どもが持ち帰る場合は負担が少ないと思います。東京書籍と光村図書出版は、5・6年生が年間1冊で分冊になっていません。重いというのは難点であるかもしれませんが、高学年なので、年間を通した学習の意識ができるという利点もあると考えています。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

日置委員 私は、読書活動の充実を図るという観点からお話ししたいと思います。

教育出版社では、付録ページの「○年生で読みたい本」であらすじや本の表紙を載せており、分かりやすく、子どもが興味を持てるような紹介がされています。例えば、5年生では、環境や世界などのテーマに沿った本、詩、ファンタジーなど多岐にわたるジャンルの56冊もの本が紹介されています。こうして取り上げられることで、ふだんは読まないような本も手に取りやすくなり、子どもたちの読書の世界が広がっていくという期待が持てます。「ふじさわ子ども読書プラン2025～第4次藤沢市子ども読書活動推進計画～」に基づいた「すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ」の実現に適していると思いました。

また、光村図書は、先ほど村田委員も触れていましたけれども、「言葉のたから箱」が設定されており、学習の中で役立つ言葉を紹介しています。「季節の言葉」では、日本ならではの季節に関わる豊かな語彙を扱っています。これらにより子どもたちの語彙力が豊かになり、その後の言語活動でも大いに役立つことが期待できます。「この本、読もう」のコーナーでは、単元のねらいを踏まえ、学んだことを生かせるように、シリーズや作者の他作品、テーマに沿った内容の本が紹介されています。既

習内容とつながる本の紹介をすることで、読書が苦手な児童でも取り組みやすく、また読書好きな児童には、ますます読書の楽しみが感じられるようになっており、主体的な学びへつながっていくと感じました。

そのほかにも、光村図書では、どの学年においても文学的文章や説明的文章を書き下ろしで読み応えのある題材を数多く設定しています。文学的文章では、「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」など、生命尊重や命の大切さについて扱った教材が掲載されています。文章を読んで考えをもち、それを共有して、また、さらに自分の考えを広げていくことで、他者を尊重し、思いやる力が育成できると思いました。また、「くじらぐも」、「スイミー」、「お手紙」、「ごんぎつね」、「やまなし」など親の代から長い間読み続けられている物語も多く、親子で同じ物語を共有でき、学習話題に取り上げることができる利点も感じられると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

堀部委員 私のほうからは、観点2の表記についてお話しさせていただきます。

東京書籍は、イラストや写真が大きく、児童が興味をもって学習に取り組むことができると思えます。また、大変柔らかい色合いでのイラストが使われており、色覚の多様性に配慮されているため、児童が集中して学習に取り組むことができる工夫がされています。また、物語、説明文では、特定の行を見つけやすくするため、5行ごとの行数字の間にも点を示し、それらをつなげるドットが繊細で優しく、大変効果的な支援の配慮がされていると感じました。

光村図書出版では、文章の境界や文字の大きさが学年ごとに

配慮されており、大変読みやすい工夫がされております。イラストや写真、グラフなどの資料が多く、児童の興味関心が高まり、学ぶことへの意欲が深まることで、学習内容の理解につながると感じました。また、学習のめあてごとに色分けされた表示になっており、共通にどの学年でも使われていることもあり、児童にも何を今身につけるための学習をしているのか視覚的にも理解でき、継続的に取り組むことへの積み重ねの大切さを教師も実感することができると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

原委員 保護者目線で一通り目を通していただきまして、私が興味を持ったものは、光村図書です。その理由として、2つあります。

1つ目は、途中途中で入っているコラムや資料が取り上げてほしい旬の話題でした。例えば、6年生の教科書には、デジタル機器についてやスマートフォンの使い方などが掲載されており、内容が良い題材が多いと感じました。2つ目としまして、「スイミー」の物語で比較してみたところ、東京書籍と教育出版が1年生で取り上げている中、光村図書は2年生上で取り上げていました。踏み込んだ内容や漢字習得の面から考えても、物語をより理解する上で、2年生で取り上げている光村図書がよいと感じました。

教育出版について申し上げますと、行間が広く、読みやすい、書体が見やすく、文字が捉えやすいと感じました。また、高学年が上下で分冊になっているのがよいと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようなので、次の書写に移ります。では、書写についてご意見をお願いします。

澤野委員 各者とも様々な工夫が見られます。例えば文字を書く姿勢について、合言葉や体操などを使って分かりやすく示すことで定着を図っています。

カリキュラム・マネジメントの観点で見ると、他の教科等と関連する学習活動が設定されているところも高く評価できます。東京書籍では、生活科の観察カードを、教育出版では、理科の実験記録、光村図書出版では、社会科で新聞やポスターを書くなど、各者とも子どもの日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫がされています。さらに、低学年では、各者とも、楽しみながら繰り返して練習できるように水書きシートが用意されている点もよいと思いました。

東京書籍の鉛筆の持ち方では、ほぼ実寸大の写真が用いられ、教科書の上に実際に手を置いて書く姿勢をイメージできるつくりになっています。また、左利きの児童の鉛筆の持ち方の写真もあり、細やかな配慮が感じられました。

教育出版では、3年生以上では、見開き1ページの中に毛筆の学習の流れが示されていて、次のページでは硬筆で書き込める設問が取り入れられています。硬筆から毛筆への移行がスムーズにできるように工夫されています。

光村図書出版では、硬筆のスタートの1年生、毛筆のスタートの3年生の教科書で、鉛筆や筆を持つまでの準備や姿勢など、スムーズに書き始められるように構成されています。簡略化されたマークを使って、分かりやすく学習のポイントが示されているのもよいと思います。さらに光村図書出版では、主体的・

対話的で深い学びにつながるように、整った文字を書くためにどうすればよいのかを子どもに考えさせ、さらに指導者や友達と対話する場面を設けています。あわせて、相手に読みやすいように丁寧に字を書こうとする姿勢を育てることにもつながるのではないかと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

繁里委員 私からは、分量・装丁・表記等の観点からお話ししたいと思います。

まず、東京書籍、教育出版、光村図書出版ともに、各学年1冊で構成されています。色遣いについては、カラーユニバーサルデザインの観点から、どの児童にとっても見やすい配色やデザインに配慮しているのを感じました。字体はユニバーサルデザインに配慮した読みやすいフォントで、学年に応じた見やすい字の大きさになっています。また、全ての学年でよい姿勢と鉛筆や筆の持ち方、用具の置き方について写真とイラストを使って丁寧に説明しているため、いつでも文字を書く基本を確認できるようになっています。1年生につきましては、書写の最初の授業でどのように文字に出会うかで今後の字を書く楽しさや喜びにつながります。

その視点で教科書の表紙を開くと、いずれも文字に興味関心を持つような内容となっていました。特に光村図書出版は、すっきりとした紙面構成で、シンプルに書写の約束を確認した後、自分の名前を教科書に書くつくりになっていて、児童の書きたいという思いを大切にしているなど感じました。

構成について、どの教科書も学ぶべき知識や技能を系統的に配列するとともに、硬筆と毛筆を関連させて学習を進めるようになっています。毛筆の始まる3年生の教科書を見ますと、書

き方や筆圧など毛筆の学習に向けた導入が掲載されています。教育出版と光村図書は、見開きページを基本として丁寧に説明を展開しているのです。児童にとって分かりやすく、意欲をもって毛筆学習に取り組めると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。

日置委員 私は、児童の実態に即した内容という3つ目の観点からお話しをさせていただきます。

3者とも、教科横断的に、他教科の中でもどのように学んだことを生かすかということが示されています。市の調査資料にも、各教科との関連の工夫が示されています。

東京書籍では、社会科の国調べのポスターの書き方の例、教育出版では、校外学習のリーフレット作成の流れなどが紹介されています。光村図書では、「書写 広げたい」の単元で硬筆の横書きの書き方やリーフレットの書き方、アルファベットについても扱っていて、他教科や生活の中で学習したことが生かせるようになっています。教育出版4年書写では、「文字の大きさと配列に気をつけて書こう」というめあてで「ぼうさいかるたをつくる」という取組が紹介されています。4年生の社会科で地域の防災などを学ぶので、教科横断的に児童が興味をもち、意欲的に取り組める課題だと思いました。

本市では現在、外国につながる児童が増加しています。教育出版5年の巻末には世界の「こんにちは」のつづりが、そして6年の巻頭には「知りたいな 世界の『書く』」として、英語のカリグラフィーやアラビア書道などが紹介されています。多様な世界文化に触れる機会の多い藤沢市の児童には、大変よい教材だと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。また、全体を通してご意見の付け加えなどはございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようなので、次の社会に移ります。では、社会についてご意見をお願いいたします。

和田委員 社会科は、小学校3年生から始まる教科です。2年生までの学習の中では、共に社会との関わりを扱う生活科との関連があります。そこで、社会科へのスムーズな接続という視点で見ると、教育出版は「生活科をふり返ろう」というコーナーで、生活科の代表的な学習場面を想起するページが設けられており、接続を意識した構成となっております。また、東京書籍では、巻頭で生活科の既習事項の確認から第3学年の学習内容を提示していくことで、これから始まる社会科学習に意欲をもって取り組める工夫がなされています。

次に、学習指導要領との関わりという視点から見ると、教育出版は教科書の随所に「学びのてびき」、「次につなげよう」という欄が設けられており、学習内容を多面的、多角的に考えられるような工夫がなされています。東京書籍は、市の調査資料にもあったとおり、問題解決的な学習を進めていくために、問題を「つかむ・調べる・まとめる・いかす」という構成にしています。「まとめる」のページでは、学んだことを図や表を使い整理したり、様々な視点から考え、話し合ったりできるようにつくりになっていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

繁里委員 では、私からは紙面のつくりについての視点でお話ししたい
と思います。

東京書籍、教育出版、日本文教出版ともに、各単元において
視覚的効果が図られるように、写真や図、表などを適切に用い
て児童の学習への興味関心や理解が深まるようにしています。
また、学習内容ごとに本文や資料などが見開き2ページ程度で
まとめられていて、分かりやすいです。

中でも教育出版は、見開きページの初めに「この時間の問い」
を設定し、児童が問題解決型学習に取り組みやすくなっている
のと、終わりには「次につなげよう」を設定していて、次時へ
の問いへつながるようになっていきます。これにより、各単元の
流れや連続性がかみやすいのではないかと思います。

教科書の冊数ですが、教育出版と日本文教出版は、どの学年
も1冊にまとめられてつくられています。各校の教育課程編成
におきまして、指導計画を立てる際には、単元の順番を入れ替
える可能性があることから、1冊になっているほうが対応しや
すいと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

宮崎委員 県の調査資料にもありますように、3者ともに学びに向かう
力、人間性の涵養という点について、学習した内容を地域や社
会の課題に向き合って、問題意識をもって、そして話し合うと
いう活動が組み込まれていると思います。例えば、防災や環境
に関する課題に対して、持続可能な開発目標と関連させながら
話し合っていく活動が工夫されており、今日的な課題への意識
を高めることができると思いました。子どもたちが、これから

成長して将来生きていく時代の困難さですとか、様々な課題を解決していくために、自分たちはどうしたらよいかということを中心に考える力の育成につながると考えます。

日本文教出版につきましては、「わたし（たち）の問題」、「学習問題」として単元を貫く問いが示され、単元を通した追求や解決ができるようになっており、さらに単元の終わりに「さらに考えたい問題」を例示して、学んだことを生かしながら追求する活動を促していると感じます。

分量、装丁ということから考えますと、先ほど繁里委員のご発言にもありましたけれども、東京書籍は2分冊で構成されていることから、ランドセルが重いと感じる子どもたちの負担を軽減することができると思います。一方、社会科という教科の特性上、2冊に共通した内容を学習する際には不便さを感じるという場合があるかなとも思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

山崎委員 よろしく申し上げます。私は、どの教科書が藤沢市の子どもたちに親しみやすいかという点で述べさせていただきます。

和田委員も生活科との関連に触れておられたんですが、子どもたちは、1・2年生のときに生活科の学習で、自分と身近な人や社会、自然について関心をもてるような学習をします。そして、3年生になって社会科が始まると、より具体的に自分たちのまちを調べて、さらに県、国というふうに学びを広げていくと思います。本市には、藤沢市の社会科資料集がありますように、自分の住んでいる地域の理解を深め、気づいたり関心をもったり、愛着をもったりすることが大切だと考えます。

そういった面では、教育出版の教科書には、神奈川県について書かれているページが大変多いと感じました。例えば、3年

生の「わたしたちのまちと市」では、横浜市のことが取り上げられていて、藤沢市の児童にもなじみのあるよこはま動物園ズーラシアが載っていたり、東海道のことにも触れられたりしています。

4年生の「水はどこから」では、相模ダム水系を扱っていて、本市の児童がよく社会科見学で行く宮ヶ瀬ダムや寒川浄水場などの記載も見つけることができました。同じく4年生、「昔から今へと続くまちづくり」では、「地域に学校をひらく」という学習を選択できるようになっているのですが、その中で、小笠原東陽のことが取り上げられています。羽鳥村や耕余塾など、なじみの深い言葉も見られました。

5年生の「日本の国土とわたしたちの暮らし」では、藤沢市の八ヶ岳野外体験教室のある長野県南牧村を扱っています。八ヶ岳野外体験教室のプログラムでレタスの収穫体験をしたことがあるのですが、なぜ八ヶ岳でレタス収穫なのか、社会科で身につける知識と実際の体験がつながって、より深い学びにつながると考えられます。自分たちの暮らしとなじみのある場所が教科書に載っているということが児童にとって、より興味関心を持って主体的に学ぶことができるのではないかと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。また全体を通してご意見の付け足し、付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようですので、次の地図に移ります。では、地図についてご意見をお願いいたします。

宮崎委員 地図につきましては、帝国書院と東京書籍の2者がございます。それぞれがともに編修の基本方針をしっかりと反映してつくられておりまして、必要なことは網羅されていると思います。

帝国書院は、「地図ってなんだろう」、「地図のやくそく」のコーナーで、方位や地図記号、距離の求め方など分かりやすく図式されていて、また、「広く見わたす地図」など全体的に情報を精選した分かりやすい地図になっていると思います。初めて地図を使う3年生にとって、学びやすいという印象をもちました。また、自然災害と防災について解説するコーナーがありまして、「防災マップづくり」の作り方が示されていて、自分たちの住む場所に置き換えて防災マップを作成するという活動ができることから、作業や調べ学習を通じて子どもたちの防災意識の向上に大変効果的だと思います。

東京書籍には「マップでジャンプ」、帝国書院には「地図マスターへの道」というコーナーがあり、子どもの興味関心を引きつけ、自ら調べようとする意欲の向上に効果的だと思います。

帝国書院の「地図マスターへの道」は、学年ごとに学習課題が示されていて、発達段階に合わせて学習を行うことができると考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

山崎委員 私は装丁、表記の観点で話をします。

帝国書院の地図帳は、「広く見わたす地図」「○○地方」「世界」「資料図」「統計」という5つの項目ごとに色分けされています。

また、索引についても、赤太字・赤字・青字・緑字・黒字と5つに色分けされていて、児童が調べたいことを分かりやすく調べられる工夫がされていると感じました。さらに統計につい

でも、8 地方ごとに色分けされていることはもちろんなのですが、「国土」「農林水産業」「工業」「くらしと環境」「おもな伝統工芸品と生産都市」の項目ごとにも色分けがされていて、すっきりと見やすい印象を受けました。それから、全体的に「土地の高さ」「市街地」「田畑」など、土地の使われ方などの色分けが非常に鮮明で、地形的な特色を捉えやすい印象があります。また、イラストや文字、主要道路、鉄道など地図の中にはたくさんの方が入っているのですが、それぞれが工夫を凝らしていて、認識しやすい感じがしました。資料図の項目では、掲載内容を精選して必要な情報がほぼ見開き 1 ページにまとめられていますので、資料集としての役割もしっかりと果たすことができると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。

村田委員 私は、学習指導要領の観点から見るというところでお話をします。

2 者とも、児童が地図に興味を持ち、地図帳を使って主体的に学びを進めていきたくなるような工夫がそれぞれになされていると感じました。

東京書籍のほうは、地図やグラフなどの資料とともに、イラストが効果的に使われていて、子どもたちが情報を整理しやすくなっていると思います。社会科で学習する内容とも関連づけ、4 年間を通じて活用できます。特に、自然災害のページは使いやすかったです。

帝国書院のほうは、先ほど宮崎委員も触れていらっしゃいましたが、まず、初めて地図帳を手にする 3 年生の導入のページが秀逸で、とても分かりやすいです。東京書籍と同様に、各学年の社会科の学習で資料として活用できるところも多く見受け

られます。特に調査員調査資料にもあるように、明治時代初期の地図が掲載されていて、過去と現在を比較することができ、6年生が歴史の学習を深める資料として興味深く、期待がもてます。

本市の児童の実態や地域との関わりで申し上げますと、帝国書院には、「高地のくらし」のページに、藤沢市の野外体験教室のある八ヶ岳の資料が載っています。5年生が毎年訪れる場所なので、児童は親しみをもって、また授業で活用できると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

金田委員 私は、子どもがちょうど3年生になりますので、3年生が取り組む上でどうかなという視点で見させていただきました。

東京書籍のほうは、最初のほうで、方位のページで方位磁針の使い方というのは、とても詳しく書かれていました。それから、地図の中の市街地や森林地帯などの色分けが4項目で、色味が少なめで、すっきり地図が見られるなというふうに感じました。ただ、3年生から使うと考えたときに、デジタルコンテンツはちょっと難しいかなと感じたり、あと、例えば斜めから見た地図と上から見た地図のところはすごく細かくて、同じ地図だというイメージがちょっとしづらいかなというふうに感じました。

一方、帝国書院のほうは、方位のページが、自分の体を使って方位をとというのが、ちょうどうちの娘が家で、「お母さん、東ってどっち。」と言って、「あっ、うちの庭は南向きだ。」とか、すごく興味をもって、これはどっちが東かな、そして、それがどうなっているのかなというのは、体を使って体感して、身近に感じて、学べていたのかなというふうに感じました。

それから、東京書籍のほうは4項目に分けられていた色分けが、帝国書院は6項目に分かれていて、それが商業地帯なのか、住宅地なのかとか、そういうところが、ぱっと見て分かるので、「ここはお店が多い場所だね」とかというイメージがしやすいなというふうに感じました。あと、やっぱり「広く見わたす地図」のページがあることで、3年生というのは、「あっ、ここにこれがあるのだな」ということがより分かりやすいのではないかなと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。全体を通してご意見の付け加えなどはございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようですので、次の算数に移ります。では、算数についてご意見をお願いします。

日置委員 私は、入門期の工夫という観点からお話をさせていただきます。

各者、入門期において楽しく学習に取り組めるように工夫がなされています。スタートブックというような数の基礎的概念を扱うような分冊を扱っているのは、東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版の4者です。どれも40ページほどの薄い分冊になっています。

中でも、東京書籍、大日本図書、啓林館は、大きなA4サイズのワークブックのようになっています、ノートを使わずにこれ1冊で済むため、机上がすっきりして学習に集中できますし、ブロックなどの操作もしやすいと感じました。

とりわけ東京書籍は、数の合成の部分などをとても丁寧を取

り扱っていて、まず目も大きく、書き込みもしやすいと感じました。また、2年生からは各学年、「算数マイノート」というコーナーがあり、ノートづくりに重点を置くことで数学的な見方、考え方の振り返りや深い学びができるように工夫していると感じました。

続いて、学校図書についてお話をいたします。これまで入門期の工夫ということでお話をしてきましたけれども、学校図書は、6年生に「中学へのかけ橋」という分冊がございます。これがとてもいいなと思いました。小学校6年間で見つけた算数の見方・考え方を復習して定着を図るものが半分、残り半分は、発展として中学校で学ぶことの導入が載っています。児童が自分の実態に応じて、個別最適な学びができるような工夫がされていると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございました。ほかにご意見はございますか。

澤野委員 算数は積み重ねの教科なので、学びの連続性を意識して、数学的な見方・考え方を働かせ、目的意識をもって問題解決に取り組む学習を積み重ねることが大切です。知識や技能の定着を図るため、各者とも補充や発展問題を設定しています。問題数や難易度にややばらつきが見られました。中でも、東京書籍は難易度別に設問されていて、ステップアップすることを目指して、意欲的に学習に取り組むことができると考えます。

算数は、学年が進むほど、苦手意識をもつ子どもがいます。各者とも子どもの学びの困難さへの対応について、前学年までに既習内容が分かりやすく示されています。また、振り返り問題として、「確かめよう」や「分かっているかな」などが設定されているのがよいと思います。

啓林館は「めあて」と「まとめ」が同じページに収まるよう

工夫されているので見やすく、スモール・ステップで学びを積み重ねることができると思います。

大日本図書は、紙面が大きく、見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントが採用されています。程よい情報量で子どもの苦手意識の軽減につながると思います。

東京書籍の時計の学習では、1ページを使って時計が大きく描かれているので、目盛りが読みやすくなっています。細かな目盛りを読むことが苦手な子どもに対しての配慮が感じられます。また、つまずきが多い單元には「おぼえているかな？」を設定し、スムーズに学習に取り組める工夫が見られてよいと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

一瀬委員 私は、学習指導要領との関連、内容・構成という観点からお話をさせていただきます。

まず、教育出版についてですが、全学年にわたって、「はてな？」「なるほど！」「だったら！？」という表示がなされています。児童が課題に出会ったときに、「はてな？」と問いをもち、そして自分なりの考えをもって、また、友達と学び合う中で「なるほど！」と解決し、それをもとに「だったら！？」と、さらに活用したり、新たな問いを持ったりと、問いの連続の中で学習を進めていく構成になっています。このことは、子どもたちの問題発見力、解決力、追求力を育むことにつながると感じました。

また、課題についてですけれども、多くの者がSDGsや環境問題など現代的な課題を取り上げていることは、算数を学びながら社会の変化にも関心を寄せる機会となり、とてもいいなと思いました。

さらに、教育出版についてですが、5年生の「単位量あたりのおおきさ」では、駅で待ち合わせをする際に、算数を使って考える場面を課題としていたり、また2年生の「長さ」では、身の回りのものから長さを見つける場面が課題になっていたり、算数で学んだことを日常場面に結びつけるような課題が随所に設定されています。このように児童の興味をそそるような課題や学んだことをさらに深め、主体的な学びが持続できるような工夫が多く見られました。

また、東京書籍については、単元の導入時で学び合いの場面が分かりやすく設定されています。このことは、児童が教科書を見ただけで多様な考えがあることに気づくことはもちろんですけれども、経験の浅い教師にとっても無理なく学び合いの場面を設定することができ、協働しながら課題を解決するという課程で、深い学びにつながれると考えられます。

次に、分量・装丁・表記等についてお話をさせていただきます。

各者とも、入門期の別冊や学年を分冊にするなどそれぞれの工夫があり、それぞれのよさを感じました。特に、学校図書についてなんですけれども、ワイド判を使用しており、左右がすっきりと開くことができます。書き込んだり定規を使って図形を描いたりする際には、とてもよいなと思いました。

最後に、本市の児童が主導するという視点からお話をさせていただきますと、東京書籍については、全体的に色合いの統一感が感じられ、そのせいか、ぱっと見て行間が広く、刺激が少なく優しい印象を受けました。また、教育出版については、本市の児童にとって身近である横浜市の地図や相模原市の写真など神奈川県内の事例が掲載されていました。このようなことも藤沢の子どもたちの算数への意欲につながるであろうと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私は、分量・装丁・表記等の観点からお話しさせていただきます。

各者とも構成に関して工夫されており、大きな差は見られなかったように思います。東京書籍のように、巻末に「おもしろもんだいにチャレンジ」を入れるなど、どの教科用図書も補充問題、発展問題を単元末に取り入れて、大変充実させていると思います。

ただ、分量に関していえば、低学年のうちは、できるだけ荷物は軽くして、通学の負担は少なくしたいと考えますので、分冊のほうがよいと思います。東京書籍と学校図書は、1年から5年が分冊で、6年生が1冊。教育出版、啓林館、日本文教出版は、1年から4年が分冊で、5・6年が1冊となっています。

それから、見やすさでいうと、学校図書は、A B判で1ページが広いので見やすいなというふうに思いました。また東京書籍は、一瀬委員も触れていたように、色が厳選されていて、目に優しく、見やすい。それから、重要事項が枠で囲まれており、分かりやすいように工夫がされています。

各者とも、小学校での学習と中学校とのつながりを分かりやすいように示してありますが、特に学校図書は、日置委員も触れていたように、別冊で「中学校へのかけ橋」がありまして、中学での学習がイメージしやすい工夫がされていると思しました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見が無いようなので、次の理科に移ります。では、理科についてご意見をお願いします。

川島委員 今回、教科用図書を見るに当たって、理科については、子どもたちの理科離れが進んでいるということがあると思っていて、「知識を詰め込むよりも実験に取り組みたいという気持ちをどのように子どもたちにもたせるか。」そんな観点で、教科用図書を見てみました。

まず、どの者についても言えるのは、実験のページがいろいろ載っているのですけれども、写真であるとか図であるとかが大きく見やすくなっていて、実験の手順も分かりやすくまとめられているなということです。実験をする際に取り組みやすくなっていると思いました。

東京書籍については、実験や観察の手順であるとか器具の使い方や実験方法等の説明が実物の写真等を用いて示されていて、安全に取り組めるかなという感想を持ちました。

大日本図書は、実験のページの字の大きさであるとか色合いであるとか、見やすくて分かりやすいと感じました。また、順序よく指導するにあたっては、適しているのかなと思いました。この大日本図書については、各校からの評価も高かったです。

それから、理科では実験結果を予想するということがありますが、学校図書は、予想するときに、それぞれの学年の発達段階などに合わせた身近な例みたいなものが載っていて、児童が取り組みやすかったり、考えやすかったりということがあったかなと思いました。

教育出版については、なぜこの実験をやるのか、観察をするのかという必然性みたいなものを感じられるような導入になっ

ているという感じがいたしました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。

山崎委員 私は、本市の児童の実態や地域等の特性との関連からお話をしたいと思います。

6年生、「土地のつくりと変化」の学習では、大日本図書と啓林館で、地震によって盛り上がった土地の例として、江の島が取り上げられていました。どちらも航空写真が使われていますが、啓林館では裏磯の写真も併せて掲載されていて、藤沢市の児童にとって身近にすばらしい教材があることに気づくことができると思いました。

また、大日本図書では、3年生「自由研究」の「調べたりつくったりしよう」の中に、湘南台文化センターこども館が紹介されていたり、5年生、「科学館・博物館に行ってみよう」で新江ノ島水族館が紹介されていたりします。どちらも藤沢市にある魅力的な場所の一つだと思いますので、教科書で見るだけでなく、実際に夏休みの自由研究などでも利用する児童が増えることが期待されるのではないかなと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

村田委員 私は構成、分量、装丁、表記、表現の観点からお話をさせていただきます。

各者とも、ユニバーサルデザインの視点から、文字や色使いに配慮が見られます。啓林館の教科書は、実線と点線を使い分けて、色覚の個人差を問わず判別しやすく工夫されていると思いました。学校図書は、実験などの一工程ごとに写真や図を対

応させていて、分かりやすい紙面構成になっていると思いました。

理科という教科の特性上、写真については、どの教科書も多用され、視覚的に捉えやすくなっていました。教科書のサイズの違いで印象が変わると感じました。学校図書、教育出版、啓林館は、A4より縦が少し短いA5判で、大日本図書と東京書籍はA4判です。特に大日本図書は、判の大きさを生かして見開きで比較して、子どもが課題を見つけやすいようになっていたり、実験や観察の様子が捉えやすくなっていたり、児童の学びを効果的に支えられると感じました。

それから、各者で神奈川県内の写真が使われていますが、より児童に身近なところでは、啓林館の6年生に「光電池を利用して発電する町」として「Fujisawaサステイナブル・スマートタウン」が掲載されています。また、先ほど山崎委員も触れていらっしやいましたが、大日本図書の6年生の「土地のつくりと変化」に江の島が地震で隆起した例として載っていて、これは市内の小学生が心惹かれる教材になっていると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

堀部委員 私は、ICT機器の活用についてお話しさせていただきます。それぞれどの教科用図書も、プログラミングなどICT機器を扱う場面が用意され、活用しやすいと感じました。

東京書籍は、巻末に「理科とプログラミング」の項目があり、各学年の児童の発達段階に応じた実践例が示されています。

大日本図書は、各ページに2次元コードがあり、道具の使い方や実験動画など、必要なタイミングで視聴することができるようになっております。口頭での説明では理解しにくい児童にとって、視覚的に把握できることは大変有効です。また、タブ

レットの使用方法やプログラミング教育に配慮した資料も掲載されております。

学校図書では、児童が随時動画や資料などを閲覧したり、無料でプログラミングを組んだりできるコンテンツが豊富に用意されております。

教育出版は、観察、実験に関する動画や「ウェブずかん」を2次元コードから閲覧できるようにしたり、ICT機器を扱う場面が分かるようにマークが掲載されております。児童にとっては、学習の振り返りにも活用できる工夫と感じました。

啓林館は、ICT機器の使用例が活用の目的とともに随所に示され、デジタル教材が豊富に活用できるようになっていると思いました。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見が無いようですので、次の生活に移ります。それでは、生活についてご意見をお願いいたします。

松川委員 私は、主体的・対話的で深い学びの観点で見させていただきました。

光村図書では、生活は学びの始まりであり、探検というわくわくする気持ちの持続が学びの質と量を高めてくれるという思いで教科書がつくられていると感じました。わくわくできるようなダイナミックな写真やイラストでイメージを広げることができるような紙面となっており、初めて小学校生活が始まる子どもたちが、興味関心をもって新たな生活を探検し、それが学びにつなげられるような構成になっているなど思いました。

また、吹き出しの言葉やヒントを短い言葉で表しており、児童が活動の中で考え、深めるための手がかりや気づきを促すものになっていると感じました。「こんなこともあるかもね」、「こんなのもいいかもよ?」、「こんないいかたもできるよね」など、ヨシタケシンスケさんのイラストで個性的な学びを応援しています。失敗しても、人と違ってもいい、自分の感じたことや思ったことが大事なのだよというメッセージ、一人一人が安心して自分らしい学びができるよう、ユニークな言葉と絵で表現されており、児童に安心感を与えたいと思いました。また、「ひろがるせいかつじてん」が別冊であり、子どものニーズや授業に合わせて組み合わせ活用ができます。単元に即した多様な資料で個の学びに応じることができると思います。上巻の生き物図鑑「きせつのなかまたち」は、野外でも活用できるよう、水や泥に強い加工となっています。写真家、今森光彦さんによる生き生きとした動物の姿は、子どもたちを引きつけると感じました。

大日本図書では、子どもの目線に立ったダイナミックで躍動感のある写真やイラストで子どもの興味関心を刺激し、やってみたい、面白そうなどの活動への意欲や期待を引き出すような紙面表現になっていました。上巻の「ぐんぐんおおきくなるよ」では、A4判になった紙面を生かし、実物大で示したアサガオの成長の様子が掲載されています。児童が自分のアサガオと比べて見ることができ、子どもの観察の視点も広がると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

川島委員 私は、生活の教科用図書を見るときに、1年生が初めて学校に入る、そして生活科で、学校探検であるとか、いろいろなこと

をやるわけです。そこで、生活科に触れる子どもたちの興味とか関心とかという観点で教科用図書を見てみました。

幾つかの者に触れたいと思いますけれども、まず、東京書籍については、単元の導入のページの写真が、すごく分かりやすくなっていると思いました。文字とか写真の全体的なバランスがよくて見やすいと思いました。

また、二次元コードがついているのですけれども、その内容も豊富であると思いました。特に「デジタルいきものずかん」というのがあるのですが、ここについては、数が多く充実しているなと思いました。さらに、ワークシートの記述例が多く載っていて、取り組みやすくつくられていると思いました。

光村図書です。光村図書については、まず、教科書名が「せいかつたんけんたい」というのです。子どもたちが、すごくわくわくするかなと、表紙の絵もそんな感じの絵が載っていて、いいと思います。授業に取り組むときの最初の気持ちというのは、すごく大事であると思いますし、先ほど松川委員もおっしゃっていましたが、イラストなども子どもたちの心をくすぐるようなものになっていると思いました。なかなか興味深い教科書でした。また、夏休みに行ってみたい場所ということで江の島の写真が載っていたりして、子どもたちが身近に感じる事ができるかなと思いました。

学校図書です。学校図書については、判の形がA4判の変形型、AB判を使っています。教科書をぱっと開いたときに、大きさとして、幅はほかの教科書と変わらないはずなのですが、何かすごく大きく見やすい気がしました。この本の中には4人の登場人物が出てくるのですが、この人たちが全て吹き出しを使って、子どもの学習のきっかけをつくっているというところが、いいと思いながら見ました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。

堀部委員 私のほうからは、観点2の分量・装丁・表記等についてお話しさせていただきます。

教科書のサイズですが、啓林館はA B判を採用され、児童にとりましては、教科書を開いたときに全体を把握しやすく、大変見やすいと感じました。入門期の児童には、ページをめくりやすいよう、丸く裁断する配慮がなされております。また、絵や写真が多く使われていますので、ページ数は多いですが、児童にとっては取り組みやすいと感じました。

東京書籍は文字が少なく、柔らかいタッチでのイラストで、手洗いマークや約束事など、同じ位置に配置され、大変見やすいレイアウトになっており、学びのプロセスを下段に表示しているのも、見通しをもって学習できる工夫がなされております。また、川島委員もデジタル図鑑について触れていましたが、上巻巻末には「ほんとうのおおきさ いきものずかん」のページがございます。紙面による図鑑とデジタル図鑑があり、野外活動で発見した生き物をすぐに調べることができますので、児童の意欲と学びを深められると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

和田委員 私は、幼児期の教育との連携、接続という視点で話していきたいと思います。

教育出版の上巻、「はじめのいっぽ」では、ページの上段に小学校で学習すること、下段に入学前からしていたことが示されています。それを見比べることで、新しく始まる学習に目を向ける工夫がなされていると感じました。

また、東京書籍の上巻、「どきどきわくわく1ねんせい」では、教室、友達、学校と、関わる人や場所が徐々に広げられていて、

児童が安心して学校生活に慣れていけるような流れになっていると思いました。この東京書籍上巻の巻末には、先ほど堀部委員からもありましたが、「ほんとうのおおきさ いきものずかん」がついており、野外活動で発見した生き物をすぐに調べることができるといった点で使いやすい工夫であると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

柴山委員 全体的な感想みたいになってしまうかもしれないんですが、それぞれの教科書にキャラクターが、それぞれ親しみやすく載っていて、子どもたちが本当に興味をそそられるような教科書に全体的になっているなと思いました。やはり画像がばんと載っていて、本当に1・2年生は、入学後、学校のことをするだけで一生懸命なので、単純にそういう教科書、画像だけでぱっと見られるというのは、とてもいいなと感じています。

また、2次元コードが、どこにも色々たくさんあって、それは先生方の活用次第だとは思いますが、やっぱり実体験というか、匂いだったりとか、花だったりとかを摘んだりとか、そういうことをいっぱいしてほしいので、2次元コードに頼らないというのか、そのような形で進んでいけたら、とてもいいのかなと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございませんか。また、全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、生活までの審議が終わりました。会議が始まりまして1時間以上がたちましたので、ここで10分間ほど休憩としたいと思います。

委員長 それでは、ただいまより審議を再開いたします。
生活科まで終わりましたので、音楽から審議をしてまいります。音楽についてご意見をお願いします。

金田委員 私は、子どもが学校で学び、それが家庭に持って帰ってきたときに、また親とどんなふうに取り組めるか、意外と「お母さん、この歌知ってる？」とか、「この歌一緒に歌って」とか言われたりするるので、そういう点からも考えて見てみました。

やっぱりどちらもとても2次元コードを使っていて、知っている曲も知らない曲も音が分かるという意味では、子どもと一緒に楽しめそうだなというふうに思いましたし、子どもが「ちょっと忘れちゃったんだけど、こんな感じ？」というところは、おうちでも、「あっ、これだったね」と分かるところが楽しめるかなというふうに思いました。

1年生の教科書のところで、2者でちょっと違うなと感じたところがあったので、お話しさせてください。

鍵盤ハーモニカの構え方のところについて、教育芸術社のほうは、1面でぱっと見て、そこにまとめられて記載されていました。教育出版のほうは段階を経て、構え方も幾つか、3パターンぐらいに分かれて表記されていました。

あと、本編と振り返りのページが教育芸術社にはあって、それは本編と振り返りのページのイラストが共通していたので、あとはこのページのことだよという記載があったので、これってどういうことだったかなと振り返るときに、とても振り返りをしやすいなというふうに感じました。一方、教育出版社のほうは、本編とまとめのところのイラストが全然違うものだった

たり、表記の仕方も違ったりしていたので、これはイメージがちょっとしづらいかなというふうに感じました。

あと、これはすごく細かいことなのですが、鍵盤ハーモニカの構え方の手の形の表記が、教育芸術社は、“指を軽く曲げましょう”だったのです。教育出版社のほうは、“ミカンをつかむようなかんじで”という表記だったんですね。1年生にとって、ミカンをつかむようになると、こうなっちゃうと私は思って、実際、うちの3年と中1のピアノをやっている子どもたちに、同じこのままの言葉でピアノの上に置いてみてと言ったときに、やっぱり“ミカンをつかむように”というところだと、「えっ、指が中に入っちゃって、これじゃ駄目じゃない」と実際に言ったので、1年生にミカンをつかむようにというイメージが、指のタッチポイントというんですか、ここをちゃんと使って弾く形になるように伝わるのかなというのがちょっと気になりました。

あと、教育芸術社の裏表紙のほうに、子どもたちが活躍している地域芸能の写真がぱっと載っていて、それはすごく、あっ、何か子どもがやっているみたいな裏表紙にも興味関心をもてる部分があったので、楽しい教科書だなというふうに感じました。以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。

澤野委員 私は、分量・装丁・表記等の観点からお話しさせていただきます。

音楽の学習では、歌唱と合わせて器楽も大事な表現活動の一つです。1年生で鍵盤ハーモニカ、3年生でリコーダーを初めて取り扱いますが、2者ともに実物大に近い写真を使って、正しい持ち方や使い方の習得につながるような工夫がされています。特に教育出版社では、1年生の鍵盤ハーモニカを使うペー

ジが 8 ページにわたっており、初めて触れる楽器が大きな写真を使って丁寧に説明されています。確実に演奏するための基礎基本の定着を図ることができると思いました。教育芸術社は、写真に加えて分かりやすいイラストを使っています。紙面がすっきりとして、見やすいと感じました。

また、教育出版の歌唱共通教材のページの写真は、とても美しく、歌詞や曲調など教材の世界観が広がり、日本の自然や四季の美しさを感じ取れるものとなっています。情景をイメージしながら歌うのに有効だと考えます。教育芸術社は、図形楽譜を用いることで、感覚的、視覚的に楽曲を捉えやすくなり、教材のよさを味わいながら学びを進めていける点が優れていると感じました。音の高さを縦に表して、音の高低を可視化するなどの工夫もされています。また、写真の中に入っている歌詞や文章の配置や文字の色など、細部にわたって見やすいよう配慮されているところもよいと感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

松川委員 子どもたちが音楽の学習において、日本の伝統音楽のよさや特徴を実感して日本の文化として伝承していくことは、ほかの国や文化のよさにも目を向けることにつながると考えます。しかし、伝統音楽というと、あまりなじみがないという印象をもつ子どもも多いと思います。そういった観点から、2者の日本の郷土や伝統音楽を扱う題材を見てみました。どちらも子どもたちの身近なところにわらべ歌などの日本らしい音楽文化があることに気づき、そこから出発して日本の伝統音楽へと展開するような工夫がされていました。

教育出版は、箏、尺八、篠笛など日本の楽器についても触れています。伝統芸能や民謡に関しては、実際に歌ったり、口唱歌を活用したりすることにより、演奏や曲の特徴などに気づき

ながら親しむことができるように配慮されていると思いました。

教育芸術社の5年生では、生活に関わりが深い民謡の比較鑑賞を通して日本の民謡に親しむとともに、子どもたちの興味関心に応じて調べ学習ができる資料ページが設けてあり、主体的で深い学びにもつながると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。

繁里委員 どちらの教科書も、音楽活動の楽しさを体験することを通して音楽が好きになり、音楽に対する感性が育まれるための工夫が見られまして、児童が音楽的な見方・考え方を働かせて、生活の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指していると思いました。

教育出版は、音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として掲載して、音楽のよさを捉えるように工夫しています。また、様々な時代や曲種を選んで、音楽のもつ多様なよさや面白さを感じ取ることができるような教材選定をしていました。

教育芸術社は、音楽を形づくっている要素を教材ごとに示し、児童の発達段階を考慮した音域や歌詞の内容を吟味した教材、児童にとってなじみにある教材などを選定しているため、児童が自信をもって学べるのではないかと思います。また、「考える」「見つける」などのアイコンを示しまして、児童一人ひとりが学習の見通しをもって主体的に学べるようになっていたり、キャラクターの吹き出しが学びを進めるヒントとなっていて、学習の目標に自然と迫れるようになっております。本市の児童にとって、自ら学びを進める手がかりが多くあり、興味をもって学習に取り組めるのではないかと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますでしょうか。また全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見がないようですので、次の図工に移ります。図工についてご意見をお願いいたします。

柴山委員 図工ですが、2者、開隆堂さんと日本文教出版さんから出ておりますが、レイアウトが開隆堂さんはすごく分かりやすく、図工の材料に関しても上に載せているんですが、日本文教出版さんも、下に載せてはいるんですけども、絵柄なのか、レイアウトがぱっと見たときに、すごく開隆堂さんはしっかり目に入るというか、分かりやすいなと感じました。材料についても、ちゃんと明確に開隆堂さんは書いておきまして、そこは子どもたちもすぐに分かりやすく、何をそろえたらいいのかというのがすごく分かりやすいなと感じました。やっぱりレイアウトが開隆堂さんはすごく見やすいなと個人的にとっても思いました。

 以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございませんでしょうか。

宮崎委員 開隆堂も日本文教出版も、2者ともに楽しそうに作品を作る子どもたちの姿ですとか、制作工程の写真が大変効果的に用いられていまして、子どもたちの創作意欲を自然に引き出す工夫がされているなと感じました。

 学習指導要領との関連という点で申し上げますと、開隆堂は

「わくわくするね」、「みつけたよ」の題字のとおり、身近な題材が作品になったり、子どもたちが初めて触れるであろう用具があつたりと、造形表現の楽しさ、面白さを感じて、やってみたいという気持ちを高め、子どもたちが主体的に学習に取り組む中で豊かな感性を磨いていくことに効果的だなと感じました。

日本文教出版には、1年生のところで、幼児期の造形活動の振り返りを掲載するページがあります。また、5・6年生では、中学校の美術科や技術科につながっていくような題材が掲載されていることから、幼児期から中学校教育までの学びの連続性が期待できるというふうに思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

堀部委員 開隆堂、日本文教出版、両者とも伸び伸びとした作品が多く、発想を広げ、自由に表現、制作する楽しさを感じることができます。

日本文教出版では、掲載されている作品の幅が広く、色合いも大変美しいので、様々にイメージを膨らますことができます。創造性を培うことで、児童それぞれの個性と能力を伸ばすことができます。また、「受けつがれてきた形」では、日本で受け継がれてきた美術、工芸品が紹介されており、これらを鑑賞することで、形や色だけでなく新たな視点で物を見る力を伸ばし、自分の作品に生かすことで興味や関心を高め、児童の意欲につながると感じました。日本の文化、伝統を知ること、6年生社会での歴史の学習にもつながり、学びをさらに深められます。

開隆堂では、生き生きと作品づくりに取り組む児童の姿や参考となる吹き出しがあり、児童の意欲と自主性が育成できると感じました。5・6年下巻「みんなのギャラリー」では、地域

の特性を生かした造形活動が取り上げられております。すずりや江戸扇子等、日本の伝統の技を職人に児童が教えてもらう様子が掲載されていることで、「自分たち小学生でもできるんだ」「挑戦したい」と意欲につながられ、鑑賞と表現を関連づけて学ぶことができる工夫がされていると思われました。また、地元の工芸品という視点で取り上げたことで、本市の児童の場合は、鎌倉彫や寄木細工等、工芸品の美しさやよさと関心を高めるよい機会になると感じました。また、1・2年下巻では、お隣の茅ヶ崎市での砂の造形遊びが紹介されております。本市でも、海が近い小学校では同じように砂の造形遊びを行っているので、より身近に感じられると思われました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

松川委員 私は、主体的・対話的で深い学びについての観点で見せていただきました。

開隆堂は、児童に育成したい資質・能力の3つの柱を「くふうさん」、「ひらめきさん」、「こころさん」というキャラクターで示してあり、このキャラクターが各題材で中心的な目標として児童が捉え、学習を深めるような役割を果たしており、児童にとって親しみやすく分かりやすいものになっています。学習のめあてが明確で、育てたい資質・能力がはっきり分かり、児童が活動に取り組みやすいとともに、指導しやすい構成となっているなと感じました。

一方、日本文教出版では、児童の意欲を引き出す図版や投げかけにより好奇心を引き出し、主体的・対話的で深い学びとなるような構成となっているなと感じました。学習の見通しをもち、活動を振り返ることができるよう、「学習のめあて」「ふりかえり」2つの「ヒント」と、4つの投げかけをしています。そして、表現や鑑賞を関連させながら、造形的な見方・考え方

を働かせる学び方を示しているのです、児童にとって学習の進め方が分かりやすいと感じました。ICT活用できるものがたくさんありますが、中でも体と心をほぐす「ずこうたいそう」があります。造形的な見方・考え方を働かせながら、子どもたち一人一人が自身の思いや考えを基に創造していくときに、リラックスして体全体の感覚を働かせたり、想像したりしながら、体と心をほぐして授業に向かう気持ちをつくることができると思いました。オリエンテーションや友達との関係づくりにも活用でき、児童も楽しみながらリラックスすることができ、その後の創作活動によい影響を促すと思いました。

開隆堂では、題材の下部に2次元コードがあり、タブレット端末を活用して、映像で用具や技法についてや学習内容を確認したり、ワークシートを使って発想や構想を広げたりすることができ、学習を深めることができます。また、「つながる造形」のページがありました。学校内の身近な他者を意識した活動から、学年を追うごとに扱うテーマを社会全体に広げていく構成になっていたり、SDGsに関わる内容も取り扱っており、学習を広げ、深めることができると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。また、全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 ご意見が無いようですので、次の家庭科に移ります。では、家庭科についてご意見をお願いします。

日置委員 家庭科は、東京書籍と開隆堂の2者です。どちらの教科書も

写真やイラストを多用して、児童の理解を深めるような工夫がされていると感じました。

東京書籍については、児童が見通しをもって課題に取り組めるように、各題材が「1. 課題発見」「2. 課題解決・実践」「3. 評価・改善の流れ」で構成されています。特に、「ステップ3」では、児童が進んで生活に関わっていく投げかけがとてもよいと思いました。また、「深めよう」のコーナーがあり、発展的課題について考えることで、課題解決力の獲得ができ、学びに向かう力の涵養が期待できます。

開隆堂は、生活の見方・考え方、4つの視点をクローバーの葉で表して、単元ごとに重視する視点を視覚的に分かりやすく示すことで、児童が学習に見通しをもって取り組めるように工夫されています。学びを深める際にも、この4つの視点を意識した実践例を挙げていて、児童にとって、課題発見や解決を見いだすためのきっかけとして有効であると思いました。また、各ページの下部に「豆知識」があり、児童が興味をもちそうな小話や役立つアドバイスなどが書かれていて、学習への意欲を高めていると思いました。

どちらの教科書も2次元コードを活用し、動画で運針や調理などを見ることができます。児童が自己の学びに必要な部分を視聴して、作業を確認したり、応用に生かしたり等、それぞれの実態に応じて個別最適な学習を実践できるようになっていると感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私はまず、表記、装丁の観点からお話ししたいと思います。

2者とも写真やイラストが多く使われていて、見やすく、分かりやすくつくられています。東京書籍は、クッキングのところで、野菜の切り方とともに、切るサイズと実物大の写真を巻

末に載せてあって、大変分かりやすいつくりになっています。開隆堂も、裁縫のページでは、大きい写真が使用されていて、分かりやすいです。そして、写真では分かりにくい部分は、イラストで示してあって、児童が理解しやすいように工夫がされています。

次に、中学校との関連についてということでお話をします。東京書籍は、関連する内容にマークをつけてあって、6年生の最後には2年間のまとめのページを設定してあります。なので、学年間や中学校への接続がスムーズになるよう配慮されていると感じました。開隆堂は、2年間でまとめて振り返り、中学校への学習につなげるページが設定されています。児童は、中学校への学習に期待が高まり、また、教員にとっても、中学校との連携が意識できる、そういったつくりになっていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございませんでしょうか。

一瀬委員 私は、藤沢市の子どもたちが教科書を使用した場合という視点でお話をさせていただきます。

両者とも、家庭科の実習でとても大切な安全面、衛生面については、随所で様々な工夫をしながら触れられていると思いました。

特に東京書籍ですけれども、「いつも確かめよう」というコーナーをつくってあって、安全マークを目立たせながらポイントを示しています。ガスコンロの使い方やミシンの使い方では、大きめのイラストや写真を用いて、とても分かりやすく説明されていました。教師から子どもたちに全体での指導をするときに、指導のしやすさもあると思いますが、改めて子どもたち一

人ひとりが実習をするときに、教科書で確認しながら取り組むことができ、実習の作業をより安全に実施することができる、そういったことにつながると思いました。

また、開隆堂については、「生活を支える物やお金」という題材がありますが、ここでは児童にとって身近で興味深いショッピングモールが取り上げられていました。実際の場面を容易に想起しながら、自身の生活を振り返ったり、実際の買物場面での活用につながったりすると思いました。また、同じく開隆堂では、制作や調理の例が複数掲載されておりました。そういったことが、とてもよいなと思いました。児童の実態に合わせて選択できる、こういったことは、どの子にとっても充実感や達成感につながれると考えました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ご意見がないようですので、次の保健に移ります。保健についてご意見をお願いします。

山崎委員 私は、学習指導要領との関連や内容・構成などの観点から話をしたいと思えます。

どの教科用図書も、学習指導要領に準じて学ぶべきことがしっかりと身につくように学習課程を示していたり、教科書に直接書き込めるようにしていたり、よく考えられた教科用図書だと思えました。絵や写真も多く、児童がイメージしやすい工夫も見られました。また、体育科の目標である心と体を一体と捉え、生涯にわたって健康の保持増進と楽しく明るい生活を営む

態度を育てることを目指して、学んだことを自分たちの生活に生かすことができるような工夫がされていると感じました。

その中で、学研と光文書院なんですけれども、学習の進め方が分かりやすいと感じました。

学研については、単元の一冊初めのページに学習の進め方を3段階で表しています。そして、見開き1ページを使って、児童が自分事として捉えられるように工夫しています。2段階目では、課題について話し合ったり、調べたりできるようになっていて、3段階目では、学習したことを自分たちの生活に返して、生かしていこうという流れになっています。

光文書院は、「見つけよう」、「考えよう」、「話し合おう」、「調べよう」、「生かそう」というように、単元によって多少の違いはあるんですが、児童が今は何をすればよいのか、何を学ぶ時間なのか分かるように記載されていて、例えば3年生の学習の中に、「けんこうな生活」という大単元があるんですが、学研では、「もっと！知りたい・調べたい」、光文書院では、「さらに広げよう 深めよう」というタイトルで掲載されています。非常に発展的な内容も充実しているので、自分たちの生活に直結する学習として生きる知識をしっかりと育むことができるのではないかなというふうに考えました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

川島委員 今、山崎委員からすごく具体的なお話があって、私が話しているかなと思ったりもしているのですけれども、体育という授業は、そもそも子どもたちは、体育館であるとか屋外であるとかで、体いっぱい使って運動するというのを想定しています。それが保健という授業になったときに、座学になるわけです。そこで、座学になっても、子どもたちが興味をもって取り組め

る。そんな教科書であってほしいなという思いを持ちながら、教科用図書を見てみました。

先ほど生活科のときにもお話をしたのですが、どの教科用図書もイラストがふんだんに使用されていたりとか、あと2次元コードが多く使われていたりとか、というところに関しては、興味をもつという意味では工夫をされていると思いました。

東京書籍ですけれども、東京書籍については、記入用のスペースが多めに設けられていて、教科書そのものがワークシートを兼ねられるというような感じになっていました。どの教科用図書も比較的書きやすくなっているのですけれども、東京書籍については、そのようなことを感じました。

大日本図書ですけれども、先ほど山崎委員からも、色々お話がありましたが、各章の終わりに「もっと知りたい」というところがあって、資料が追加されています。そういうところは、子どもたちの見方とか考え方を広げる工夫になっていると思いました。

それから、光文書院ですけれども、各単元の導入のところで、児童の学ぼうという気持ちを上手に引き出すようなつくりになっているという感じがしました。また、後ろの発展のページのところでも、広げよう、深めようというところがあって、そこはさらに子どもたちに広い知識が獲得できるような工夫がされていると思いました。

学研については、今まで使っていたこともあるのか、学校とか調査員の皆さんからの支持も非常に多かったです。確かに、資料であるとか、データであるとか、そういったものが本当に学習に必要なものにぎゅっと上手に凝縮されているようで、焦点化がしやすかったりとかするのかなと思いました。イラストなども児童に比較的身近なのかなと思ったりして、子どもたちが主体的に学習に取り組むというところの要素は多いかなと思いました。また、5・6年の教科用図書には、藤沢の「こども

110番」の写真が載っていて、学習の際には学習意欲が高まるのではないかと思いました。

次に、大修館ですけれども、全体的に見たときに配色に工夫があると思いました。また、比較的教科書の余白が多くて、記述するスペースが大きくなっているのも、書き込み等はしやすいかなと思いました。さらに、この大修館の教科書にも、藤沢市で使われている「スクールゾーン」の写真や「敷地内禁煙」の写真が載ってまして、子どもたちが学ぶ際には、これ見たことあるとかということで、学習意欲が高まるかなと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

一瀬委員 私も、構成や装丁についてお話をさせていただきます。

どの者についても、現在の子どもたちの生活に合ったイラストや美しい写真で構成されていて、文字とイラストのバランスが、とてもいいなというふうに感じました。文字の色遣いについても様々に工夫されているんですけれども、特に光文書院と大修館では、課題の記載がほかの表記よりもとても分かりやすい色遣いになっているなと感じました。今日の学習の課題が何なのかというのが、子どもたちにとって、一目で確認できると思います。焦点を絞った学習につながるのではないかなというふうに感じました。また、学研のイラスト使いなのですから、児童の生活に寄り添った身近な題材が様々なところで選ばれているなというふうに感じました。

それから、先ほど川島委員のお話にもあったのですけれども、教科書のところどころに設けられた記述欄ですね。実際に子どもが書き込めるような欄があるのですが、特に大修館はゆとりをもったスペースで構成していると思いました。小さい文字を

書くことが苦手な児童であっても、書き込みやすいスペースが確保されているなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ご意見がないようなので、次の英語に移ります。英語についてご意見をお願いします。

金田委員 息子が5年、6年と英語をやっている、大変難しい内容をやっているなと思ったので、教科書をいろいろ見比べてみたいと思って、見させていただきました。

どの教科書も、イラストは優しい色なんだけれども、カラフルであったり、いろんな世界の写真があったりと、グローバルな意識をもてるような内容が多いなというふうにして、それはどれもいいなというふうに感じました。その中で幾つか各者、面白いなと思ったところを少しお話させてください。

東京書籍さんのほうは、デジタルコンテンツの中で、先生役の人物だけがぱっと映って、正面から映って、その人が話す表情とか口の動きとかにすごく集中して見られる部分があって、それはとてもいいのではないかなというふうに感じました。あと、様々な形式でたくさん書き込みをしていくので、自分の教科書ができ上がっていくような感じが面白いなというふうに思いました。別冊の「My Picture Dictionary」の中に、ローマ字一覧表が載っていました。ほかの出版社さんのローマ字一覧表は、教科書の後ろについているものが多かったんですね。ローマ字は意外と間違いが多くて、見返しながら書くと、結構ケア

レスミスが起きやすいかなと思って、別冊で置いて、こことここを見て書くというほうが、子どもが取り組みやすいのではないかなと思って、ここはとてもいいところだなというふうに感じました。

開隆堂さんのほうなんですけれども、「Word Book」という別冊のものがとてもシンプルで分かりやすく、教科書対応以外でも大分使いやすい、そのあたりも使いやすいところは、とてもいいなというふうに思いました。それから、「CAN-DOチェック」という自分の学習が全編一覧になって見られるところが、1年間、自分がどんなふうにしたかなという振り返りにもなっていて面白そうだなというふうに感じました。

三省堂さんのほうは、別冊のほうに本編との関連のページ数が記載されていたりして、振り返りにとても便利そうだなと思ったのと、あと会話とかライティングが中心の中に、「Story Time」というところがあって、英語で物語を聞く、耳を傾けるという時間があるというのは、心が落ち着くような時間になって、また別の英語の楽しみ方ができるのではないかなというふうに感じました。

教育出版のほうは、シールやカードゲームなどたくさんありました。お友達と一緒に、今は大分活動できるようになってきたと思うので、こういうのをたくさん活用して、自分のことを表現するのもそうだけれども、英語を本当に楽しむところをいっぱいできるのはいいなというふうに感じました。

光村図書さんのほうは、活動をマークとして表記していて、今、自分が書くこの行がどういう目的でやるというのがぱっと見て分かりやすいと思いました。あと、すごく世界の国々の紹介の写真が多くて興味深かったです。

啓林館のほうは、アルファベットのライティングのところに興味深くて、ABCというアルファベット順ではなくて、この線に書くアルファベットはこれなので、このページではそれ

を練習しましょうとか、順番ではなくて、アルファベットを書く、ここを注意しましょうと。意外と子どもは、はみ出しちゃったりすることが多くて、息子は、今、中学校でも下が出ちゃって、これは「a」じゃなくて「q」と言われちゃったとかがあるので、そこがすごく大事だよというところを気づきながら学習できるなどと思って、そこはとても工夫があって、面白かったです。あと、デジタルコンテンツのところは、会話とともに、カラオケのように色が一緒に同時に変わっていくところが、他者はあまりそれがなかったもので、リズムじゃないですけども、話すときと文字の動きが連動していて、ちょっと見ていて面白いなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

深津委員 英語は6者ありますけれども、各者とも小学校学習指導要領の要点を踏まえて、英語の4機能、5領域について目標が達せられるように、よく構成されています。英語のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を児童が楽しみながら身につけられるように、様々な活動や、それらに伴う巻末のカードとかシートなどについても、非常に使いやすく、工夫されていると思いました。また、「Picture Dictionary」があり、日本語を介さず単語を理解させたり、使用場面を考えて、単語の使い方を分かりやすく示していたりするので、的確に理解させ、表現力を育むのに期待できると思いました。

中でも、私は内容・構成の点から見て、東京書籍と光村図書出版がいいなと思いました。東京書籍では、基礎基本の定着も意識されていて、スモール・ステップで進んでおり、英語学習の観点に沿った学びの構成が整理されていると感じました。また、市の調査資料にもありますように、書く活動が多く、4技

能をバランスよく育成できると考えます。それから、光村図書出版は、先ほど金田委員が触れていらっしやいましたが、5年生から単元に沿った言語内容を用いた「世界の紹介」のページがあります。世界を身近に感じ、自然に世界に興味を持てる構成になっています。そして、2者とも初期の英語学習で自分のことから表現できることを徐々に広げていくという流れがとても自然で、親しみやすい活動場面が想定されているのがよいと思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。

村田委員 私は、2次元コードと音声や映像を使った学び方という観点でお話をさせていただきます。

2次元コードについては、ほかの教科でも随所で見られておりますが、英語では、教科の特性から効果的な活用が望まれるところだと思います。調査員の調査資料にあるとおり、各者それぞれにデジタル教材にも工夫が見られます。

啓林館のデジタル教材は、音声と同時に英語の字幕が出るようになっていて、耳で聞きながら文字を追うことができます。3・4年生の外国語活動では、なれ親しんできた英語の音声ですが、それを5・6年生の外国語の学習で文字につなげて理解する上で、効果的な活用ができると思います。光村図書は、字幕のありなしを選択できるので、目的に合わせた活用ができますし、東京書籍は、デジタル教材に字幕ボタンや繰り返しボタンがついているので、より幅広い活用の仕方が考えられると思います。

本市の児童にとっての興味関心という点でいうと、なじみのある江の島、鎌倉や横浜が各者の教科書に掲載されています。

また、三省堂と教育出版には、国語で2年生のときに学習し

た「スーホの白い馬」、「お手紙」という物語がそれぞれ掲載されていて、親しみを覚えながら、また少し違った視点で英語の学習ができそうだと感じました。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

松川委員 小学校では、3・4年生の外国語活動で聞くこと、話すことを中心とした活動を通じて、外国語になれ親しむことや学習への動機を高めるということに取り組んでいます。5年生からは、文字を読むこと、書くことが加わり、総合的、系統的に扱う教科学習になってきます。5年生の英語は教科の入り口となるわけですから、段階的に英語の表記が増えていくような教科書が児童にとって抵抗感が少なく、新たな教科の導入ができるのではないかというふうに考えます。

光村図書では、各学年に3つのテーマを設定し、学ぶことを明確にしています。導入期に当たる5年生は、自分のこと、身近な人のこと、地域のこと、6年生では、日本のこと、世界のこと、将来、未来のことというように、身近なものから次第にテーマが広がっていくようになっており、子どもたちが無理なく学習が進められるのではないかと考えます。

東京書籍は、3・4年生の外国語活動で使用していた「Let's Try!」でなれ親しんできた言語材料と冒頭の「Let's start!」などで取り上げているので、5年生にスムーズに接続できるようになっていると感じました。また、「Sounds and Letters」という読み書き指導のページを各単元末に設定されていました。

2年間を通じて文字の名前から音、文へと無理なく学習することができるようになっていたと思います。5年生では、文字の名前の定着から始め、徐々に文字の音へと、なれ親しませるようになっていきます。「My Picture Dictionary」の巻末にある「Letter Images」は、イメージを通じて文字の形や音を思い

出すヒントにもなっていると思いました。２次元コードを読み込むとアニメーションになっており、子どもたちがよりイメージを持ちやすくなっているとも感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

一瀬委員 私のほうから、構成について少しお話をさせていただきます。各者とも、児童の学びがスムーズに進むように大変工夫されているなと感じました。特に光村図書では、その学年でできるようになることを示した「CAN-DO」が複数の「Unit」に程よくまたがって構成されているなと感じました。そのことによって、学びを進める中で、何度か同じ「CAN-DO」に触れることになり、振り返りにも活用することができ、学習の定着につながると思いました。また、同じく光村図書ですけれども、各単元にスマールアクティビティの例示に加えて、「Plus One」として応用編も掲載されています。児童の実態に合わせながら学習活動を考えることができるので、授業者にとっても使いやすいのではないかなと感じました。

一方、啓林館ですけれども、５年生のアルファベットを書く学習が、学年の後半からスタートしています。文字を書くということに慣れていない児童にとっては、まず発音するということを楽しみ、味わいながら、その後、少しずつ文字を書くということに慣れていくといった構成は、とても取り組みやすいのではないかなというふうに思いました。

次に、藤沢市の子どもたちが使う教科書という視点で考えた場合ですけれども、教育出版や啓林館では、先ほど村田委員のほうからもありましたけれども、本市の児童にとって大変身近な鎌倉の大仏や横浜の中華街などに触れられていました。また、ほかの教科書でも、修学旅行で訪れる日光や藤沢市に関係の深

い、海での活動などが取り上げられていました。やはり子どもたちにとって親しみのある、特に地元であれば、なおさらなのですけれども、そういった地域の写真や内容が取り上げられているだけで、英語を学習しようという興味や関心、意欲につながっていくのではないかなというふうに感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私は、小学校の段階で最も重要なことは、英語の音声や文字に慣れ親しむということ、そして、何よりも英語を使うことを楽しむという姿勢を身につけることだというふうに思っています。日本で生活していると、実生活では特に英語を使用する必要がありませんが、そういう環境にある児童に実用的な英語による運用能力を身につけさせるためには、まず、授業の中で目的をもって、実際に英語を使う必然性のある場面や状況をきちんと設定する。そして、英語で伝え合える喜びを実感させることがとても大切だと思います。そうすることによって、授業以外のところでも英語を使ってみたりとか、自分でもっともっと学んでみたりするという意欲を持たせることができます。

そういう点で教科書を見たときに、東京書籍と光村図書出版が非常にうまく構成されているなと思いました。習得させたい表現や文法が優先されて、流れとしてあまり脈絡なく並んでいるより、2年間の教科書のレッスンの並べ方が、2年間の流れというものが意識されているということは大事だというふうに思いまして、この2者はそこが意識されてつくられていると感じました。

先ほど、松川委員も触れていましたけれども、この2者については、まず自分のこと、そして身の回りのこと、地域のこと、日本のこと、世界のこと、さらに自分の未来のことという流れ

で並んでいます。そういうことが実際に英語を使えるようになっていく自分であるとか、英語によって広がっていく世界をイメージしやすいと思います。

特に、東京書籍については、2年間で段階を追って、常に英語を使用する場面や目的をはっきり意識させて表現させている、そういう点が優れていると思います。また、別冊で「My Picture Dictionary」があり、語彙とか基本文型がまとまっていて、英語の基礎の習得であるとか、表現活動に大変有効であるというふうに感じました。同じように、他者でも、例えば開隆堂では「Word Book」、三省堂では「My Dictionary」、光村図書出版は巻末に取り外せる「Picture Dictionary」があります。そういったものは、児童はもちろん、小学校の先生方にとっても使いやすいのではないかと思いました。

それから、2次元コードを用いてスマートフォンやタブレットなどで、音声や映像が繰り返し視聴できる工夫についても、外国語の習得という観点から見ると、大変効果的だと思いますし、大切なことだと思います。その点でも、東京書籍は充実していると思いました。実際の人物が発音している表情を映したり、発音時の口の動きなどを見ることができます。映像も実写やアニメなど様々で多岐にわたっていて、内容が優れていると思いました。

最後に、デジタル教科書についてお話しさせていただきます。デジタル教科書は、各者それぞれ特徴があります。操作のしやすさというところでは、東京書籍、三省堂は、該当箇所をクリックすると拡大できるところ、教育出版は単語をクリックすると音声が行れるところが使いやすいと感じました。また、啓林館は、ページ一覧があって、目的のページを開きやすいところが便利だと感じました。それから、開隆堂と教育出版は、学習者支援のページがあり、文字が拡大されたり、文字にカーソルを合わせてクリックすると音声が行れるので、見ることに不自

由を感じる生徒にも配慮がされていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ご意見が無いようですので、次の道徳に移ります。道徳について、ご意見をお願いします。

澤野委員 道徳の授業では、子どもが自分自身の生き方を常に見つめていくことが大切です。ふだんの自分の考えや言動について振り返り、「こんなとき、自分ならどうするだろう」とか、「命を大事にするというのはどういうことなんだろう」などのように、考え、議論する道徳につながるように、各者とも工夫されています。

光文書院では、特に考えさせたい内容を重点主題として取り上げ、子どもが多面的・多角的に深く考えられるような構成になっています。扉ページで重点主題に即した問いをまず子どもに問いかけてから、主題に関する複数の教材を連続的に取り扱うことで、子どもが問題意識をもって深く考える力を身につけることができるのではないかと思います。

光村図書出版では、自分の考えを表すときや友達の考えを受け止めるときの言い方が全学年で具体的に示されており、話し合いに参加することが苦手な児童への配慮が感じられます。市の調査資料にもありますが、日本文教出版は、別冊で道徳ノートがついています。自由記述のノートなので、指導者が児童に考えさせたいことを設定できるようになっています。ノートに書いたことを基に話し合ったり、友達の意見を書き留めたりす

る中で、学びが深まっていくことが期待できます。また、形に残るので、評価の際にも役立ちます。それに対して、光村図書出版では、巻末に「学びの記録」が設定されています。二、三文程度のスペースなので、無理なく書くことができ、自分の考えを振り返り、評価することもできます。また、環境に配慮した紙を使用しているので、紙面の色が白過ぎず、目に優しく感じるのもよいと思います。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

和田委員 私は、いじめ防止について考える教材を通して、それぞれの工夫について見ていきました。

5年生では、教育出版においてSNSでのいじめを取り扱っており、問題が起きやすい5年生という時期に扱うのによい題材だなと感じました。

東京書籍では、友達のよいところを探す活動を取り入れておりました。この活動もお互いの信頼感を育むよい活動であると感じます。

また、光村図書出版は、実際にその場面を演じてみる学びを取り入れており、問題を自分事として捉えるよい工夫であると感じました。また、この光村図書出版は、巻頭にみんなで気持ちよく話し合うためのコツが示され、各題材の「かんがえよう・はなしあおう」にある問いについて話し合うことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫がなされていると思いました。このほかにも、光村図書出版は、全学年にわたって淡い色遣いで優しい雰囲気を表紙と見開きで構成されておりました。こちらのほうも学習への興味関心を抱かせ、意欲的に取り組む助けになると感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

繁里委員 道徳は全部で6者ありますが、いずれの教科書も学習指導要領の求める主体的・対話的で深い学びについて、児童が主体的に考え、議論ができるように様々な工夫がなされていました。児童は4月に学年が1つ上がり、新たな気持ちで学校生活をスタートします。これからどんな学びが広がっていくのかを期待して授業に臨むことから、巻頭の掲載内容はとても大切だと思っています。この視点で、次の3者について述べたいと思います。

まず、学研教育みらいです。巻頭に、今の自分について児童自身が記入する見開きページがあり、さらに巻末に、1年間の学びの振り返りや次年度に向けてのメッセージを書き込めるようになっていて、学びのつながりを大切にしていると感じました。

次に、光文書院についてです。巻頭に思考ツールや対話ツールについて掲載されていて、考えを整理したり、より適切な言葉を選んだりするなど、学習に入る準備段階を大事にしていると感じます。

最後に、光村図書出版についてです。発達段階に配慮したイラストや言葉を選択していて、児童は期待感をもって1年間の学びを見通せるように感じました。さらに、先ほど和田委員も触れておりましたけれども、気持ちよく話し合うためのコツが見開きページで掲載されておりまして、相手の考えや意見を受け止めることで、よりよい対話が生まれるように積み重ねていくことができ、学校教育全体に生きていくと考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

宮崎委員 先ほどの和田委員のご発言にもありましたけれども、光村図書出版については、まず、全体的に淡い色遣いで目に優しいつくりです。挿絵のタッチが柔らかくて温かい感じを受けます。文字の大きさ、太さ、挿絵のバランスも大変良いために、学習への抵抗感が薄れ、子どもたちが自然な形で学習に取り組むことができるということが期待できます。

また、1年生の学習の初めに「どうとくがはじまるよ」という見開きがありまして、道徳は心について考える時間であると易しい言葉で示し、「いろいろな心を見つけよう」と投げかけています。このことは、子どもたちがこれからの成長過程の中で、自分の心と向き合い、豊かな感受性であったり、道徳性を磨いていく道徳学習のスタートとして、大変効果的であると考えます。

また、「こころん」、「きらりん」「もやもやん」という優しい親しみやすい3つのキャラクターが題材ごとに柔らかい言葉で子どもたちに語りかけていて、考えさせているところがよいと思いました。学習に入る前に、子ども自身が問題意識を持って取り組もうという心の準備ができますし、価値観を押しつけることなく、子ども自身が自分の考えを深めたり、友達と考えを分かち合ったりする工夫があつて、子どもたち自身が主体的に学びながら、心の成長につながると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

深津委員 私は、地域の特性との関連という観点からお話しします。

各者とも自然環境保護を扱っているところで、本市の海岸清掃や八ヶ岳野外体験教室の学習などと重ねやすいと思いました。

光村図書出版では、4年生で「いのちをつなぐ岬」でウミガ

メについて書かれていて、本市には海や新江ノ島水族館があるため、きれいにすることや命について身近なこととして考えやすいと思いました。また、6年生、「クジラとプラスチック」では、海洋汚染について書かれていますが、本市でもビーチクリーンや江の島ヨットハーバーにマイクロプラスチックを回収する装置を設置するなど、環境保全に力を入れているので、身近な課題として考えを深めることができると思いました。本市との関わりのある資料を取り上げることによって、児童がより身近なことと感じたり、深く考えたりして、道徳性を養っていけると考えます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございませんでしょうか。

柴山委員 道徳ですが、どの教科にも「かぼちゃのつる」と「はしのうえのおおかみ」というのが全部掲載されていますが、その「かぼちゃのつる」は、教科書によっては4コマ、漫画のスタイルで描いているのもあったり、あとは文章で描いているものもあって、それぞれ教科書会社で特色が異なるので、すごく面白いなと感じました。また、イラストによって受け方というか、その捉え方も違うのをすごく感じました。

ちよつとここで言うことなのかはあれなんですけれども、東京書籍さんが目次のところに感染症について、「うつらない うつさないため」ということで、マスクのマークとソーシャルディスタンスで、2次元コードもあって掲載はされているんですけれども、やっぱり3年間やってきていて、そういうことの文部科学省の通達も大分変わってきた。生活様式の中で、なぜこのような形で全部の教科のほうに掲載されているのか。それも子どもたちに対してメッセージを掲載しているのか、子ども

たちはどのように捉えるのかなと。ちょっと授業の中でそういう話し合いなり、教育するのであれば分かるんですけども、さりげなくそういうのが書いてあるのは、どういう意図で書いたのかなというのが気になりました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。全体を通してご意見の付け加えなどはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員 なし。

委員長 これで、本日予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して委員の皆様、何かありますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、特になしということでございますので、次回の審議委員会の日程などについて確認いたします。

 次回の審議委員会は7月13日木曜日午後1時半から、場所は本日と同じく藤沢市教育文化センター大会議室でと考えておりますが、日程などよろしいでしょうか。

各委員 はい。

委員長 では、次回の議題は、審議方針に基づき、「令和6年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議について」、また、諮問に対して答申をする必要があることから、「令和6年度使用教科用図書に関する審議結果の答申について」の2点とします。このことについて皆様からご意

見やご確認などございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、第3回審議委員会につきましても、よろしくお願
います。

事務局から何かから連絡などはありますでしょうか。

事務局 特にございません。

委員長 特にないということでございますので、本日は長時間にわた
るご審議ありがとうございました。これをもちまして、第2回
令和6年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会といた
します。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員